

かまくらほうじょうくだいき

#11 鎌倉北条九代記

作者：浅井了意（あさい・りょうい ?-1691）

刊行：延宝3年（1675）

📖 解題

■ 内容

本書は、鎌倉将軍家執権、北条時政、義時、泰時、経時、時頼、時宗、貞時、師時、高時等、9代の事蹟を記した書であり別名『鎌倉九代記』、



[K24/5]

『北条九代記』ともいう。巻1は治承3年（1179）8月から始まり、巻12の元弘3年（1333）6月で終わり、鎌倉幕府成立から滅亡までの約150年間をほぼ年代順に記したものとなっている。幕府の要職の補任、要人の略歴、法令、行事、事件を記し、鎌倉時代の記録『吾妻鏡』で記されていない鎌倉末期を記述している点は貴重だが、作者や成立年代に関しては不詳とする説もあり、信頼性の低い記事も若干含まれるため、歴史研究の上からは参考史料の扱いに留まっている。本文は漢字片仮名交じりの和風漢文調の文体。各巻の前に目録を記している。

■ 作者

作者不詳とする説もあるが、浅井了意とする説が多い。浅井了意は江戸時代前期の僧侶・作家。瓢水子・松雲・昭儀坊などの別称がある。本願寺教団の寺侍の出身で、後に京都二条本性寺（真宗大谷派）の住職となる。仮名草子や仏書など多くの著作があり、質・量ともに時代を代表する作家であったといえる。代表作は『浮世物語』で、浮世草子への道を開いたとされ、また『伽婢子』、『狗張子』などの怪異小説は、後代の小説への影響が大きいとい

われている。

本文を読む

<翻刻>

- 『鎌倉北条九代記』思誠堂 1884 [K24/32]
 『繪本鎌倉北条九代記』福井淳編纂 濱本出版 1886 [K97.4/58]
 「北條九代記」(『帝國文庫』博文館 1894) [K24/91]
 「北條九代記」(『帝國文庫』第17編 博文館 1911) [918/7/17]
 『北條九代記』浅井了意著 国民文庫刊行會編・発行 1912 [K24/41]
 『鎌倉北条九代記 1-2巻』黒川真道編 集文館 1912<日本歴史文庫>
 [K24/79/1-1] [K24/79/1-2]
 「北條九代記」(『通俗日本全史』第4巻 早稲田大学出版部 1912)
 [210.1/41/4] [K24/137/4]
 「北條九代記」(『保元物語』武笠三校訂 有朋堂 1913) [913.44/2]
 「北條九代記」(『物語日本史大系』第4巻 早稲田大学出版部 1928)
 [210.1/274/4]

<現代語訳>

- 『北条九代記』上・中・下巻 作者不詳 増渕勝一訳 教育社 1979<教育社
 新書 原本現代訳1-3> [K24/159/1] - [K24/159/3] [210.42/115/1] -
 [210.42/115/3]

参考文献

- 奥富敬之「北條九代記」(『歴史読本』20(9) 新人物往来社 1975) [Z210/508]
 増渕勝一「北条九代記の世界」(『北条九代記』上 教育社 1979)
 [K24/159/1] [210.42/115/1]
 湯浅佳子「『鎌倉北条九代記』の歴史記述の方法」(『文学』11(3) 岩波書店 2010)
 [Z910.5/7]
 湯浅佳子「『鎌倉北条九代記』の背景」(『東京学芸大学紀要 人文社会科学
 系1』61集 2010) [Z051/658]